

11月13日 名古屋港管理組合議会11月定例会 江上博之議員

伊勢湾台風60年 から学ぶ

大阪港や横浜港のような事故を起こさない 名古屋港での台風への備えは万全か

名古屋港管理組合11月議会が11月13日に行われ、江上博之議員が伊勢湾台風60年を踏まえ、「空コンテナや自動車の流出対策」「親しまれる情報センター」について本会議質問を行いました。概要を紹介します。

コンテナや完成自動車の流出防止対策を

江上議員は「伊勢湾台風から60年の年、災害に強く、地域に親しまれる名古屋港になるように」との願いを込めて名古屋港の課題についていただきました。

伊勢湾台風では高潮が名古屋港基準面（N.P.）+5.31mとなり、河川堤防が決壊、臨港地帯の港湾施設や市の南部一帯に海水が侵入、貯木場から多数の木材が流出し、大きな損害を与え、多くの人命が奪われました。これらの被害を受け、高潮防波堤や木材港が作られました。

江上議員は、昨年大阪港や今年横浜港での台風襲来での自動車やコンテナなどが流出する被害を受けての新たな対応策について



企画展示「伊勢湾台風を振り返って」の案内から、「打ち上げられたラワン丸太」

伊勢湾台風（1959年9月26日）による名古屋市の被害状況

人的被害	死者・行方不明	1,851人
	負傷者（重傷）	1,619人
	負傷者（軽傷）	38,909人
住家被害	全壊	6,166棟
	半壊	43,249棟
	流出	1,557棟
	床上浸水	34,883棟
	床下浸水	32,469棟

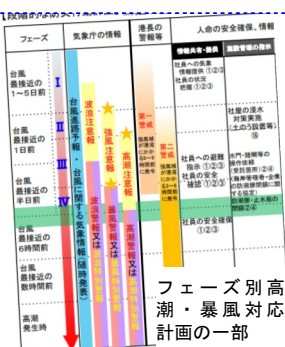
出典：伊勢湾台風災害誌

「フェーズ別高潮・暴風対応計画」や訓練を

管理組合は「N.P.+6mを目標にした検証を行い、コンテナターミナルは地形に勾配があり、事前対策での移動や固縛でハード対策は不要、モータープールの自動車には外周部に流出防護柵を設置する。先の台風では金城ふ頭駐車場に緊急的に移動した」と答えました。

江上議員は「流出事故を防ぐために事前の準備や訓練が必要ではないか」とただし、当局は「事業者が事前対策を実施している。組合では想定される標準的な防災行動をあらかじめ時系列的に整理した『フェーズ別高潮・暴風対応計画』について、コンテナ及び完成自動車に係る計画の取

伊勢湾のフェーズ別高潮対応計画（業種別）



フェーズ別高潮・暴風対応計画の一部

りまとめを、本年度を目途に進めている」「訓練は来期の台風に備え検討する」と答えました。

親しまれる情報センターに

名古屋港管理組合の中にある情報センターで、7月22日～9月27日に伊勢湾台風を特集した展示が行なわれました。江上議員は、「貴重な資料の展示もあり大切な催しだったが、実施場所等の検討が必要だったのではないかといただきました。



名古屋港管理組合。6階に情報センター。11・12階は議会。
ポートビル。3・4階に海洋博物館。

管理組合では伊勢湾台風の被災60年として様々な企画を行い、その中で、海洋博物館での「伊勢湾台風60年企画展 古地図から学ぶ尾張の歴史 名古屋港から防災を考える」との連携を図った展示を情報センターで行いました。しかし、海洋博物館の入場者は36000人、情報センターには121人という結果でした。当局は「認知度の差があった。事前のPRも不足した」との反省から「認知度向上に取り組む」ことを約束しました。

江上議員は「伊勢湾台風60年の企画で展示された資料は貴重ですので、これからも機会を見て公開」を求め、「災害に対する対策のみならず、地球環境温暖化対策にも力を



質問する江上議員（ホームページの中録録画より）

名古屋港管理組合議会の ホームページができました

11月1日から名古屋港管理組合のホームページに議会のページができ、議会中継も録画ですが、配信が始まりました。7月の委員会以降の議事録も掲載されました。

